

先端技術キーワード解説

知っておきたい最新の動き

[スマートテレビ (Smart TV)]

最近、スマートが付いた言葉を良く聞きます。その中で、家電製品の代名詞とも言えるテレビについても、「スマートテレビ」という言葉をよく聞くようになりました。今月、LG エレクトロニクス・ジャパンは、日本向けスマートテレビ「LG Smart TV」5シリーズを2012年6月初旬から販売すると発表しました。今月は、このスマートテレビを取り上げたいと思います。

スマートテレビ (Smart TV) は、概念的には、テレビにパソコン、スマートフォンの機能を包含したものです。明確な定義があるわけではありませんが、基本的な特徴は、

- (1) テレビ放送のみではなく、インターネット回線に接続して、インタラクティブな活用ができる。
- (2) パソコンやスマートフォンのように、アプリケーションソフトを自由にインストールして機能を拡張できる。

の2点にまとめることができます。

このスマートテレビの具体的な活用には以下のようなことが考えられています。

(1) ユーザーが見たい映像、欲しい情報をオンデマンドで見る、利用できるようになります。これまでは放送、配信されている番組や映像を選択して見るだけでしたが、ユーザーから見たいもの、欲しいものを要求することができるようになり、それが瞬時に対応されるようになります。

(2) テレビを操作するインターフェースとしてスマートフォンやタブレット端末などが利用できるようになります。これにより、テレビのコントロールをスマートフォンのタッチ操作で行う、タブレット端末で見ている映像等をタッチ操作でテレビ画面上に表示させるなどが出来るようになります。

(3) 各種アプリケーションを追加していくことができます。例えば、スマートフォンやタブレット端末などを通じて、テレビで見ている番組に関連した情報の確認などがリアルタイムで可能となるなど幅広い活用ができるようになります。

(4) さらに、家庭内外の生活情報（健康／ショッピング／省エネ／節電／その他）とも連携して、それらの情報を効率よく利用・操作するインターフェースとして活用することも考えられます。これは、スマートテレビを中心に、家庭内にある各種電子機器を最適に制御していくスマートホームという概念につながります。



スマートテレビについて、放送業者、家電メーカーは様々な動きを見せています。

NHKは、家電メーカー5社の協力を得て「Hybridcast」の受信機を新たに開発したと発表しています。

Hybridcast は、放送と通信（IP 伝送）の連携により、さまざまなサービスを目指す「NHK 流スマートテレビ」とのことです。今回、開発した受信機には、次世代標準として策定が進められている HTML5 ブラウザ機能を搭載し、通信との親和性を一層高めました。今後、実証実験などに使用することです。

アプリの開発に関しては、オランダ Royal Philips Electronics 社、LG Electronics 社、シャープの 3 社が、スマートテレビ向けのアプリ開発基盤を共同開発すると発表しています。これまで 3 社は欧州でテレビ向けの Web サービスをそれぞれ展開してきましたが、今後は開発基盤を共通化することを選びました。これにより、アプリ開発者は 3 社のテレビで共通のサービスを展開できるようになります。

なお、テレビ・メーカーがスマートテレビに力を入れるのは、「売り切りモデル」からの脱却もあります。現在の「売って終わり」では、競争が激しく、収益を確保するのが困難です。アプリやサービスの提供でテレビ販売後にも収益を獲得できるビジネスモデルの構築が真の狙いとも考えられています。

(参考文献)

- 1) 「スマートテレビ」最新記事一覧 <http://www.itmedia.co.jp/keywords/smarttv.html>
- 2) 写真は、NHK IT ホワイトボックス <http://www.nhk.or.jp/itwb/3/programme/13.html> から引用

(注)

本解説は、執筆当時の状況に基づいて解説をしております。ご覧になる時には、状況が変わっている可能性がありますので、ご注意をお願いします。

Copyright (C) Satoru Haga 2012, All right reserved.

技術・経営の戦略研究・トータルサポータ	工学博士 中小企業診断士 社会保険労務士(登録予定)
ティー・エム研究所	代表 芳賀 知
E-Mail: info_tm-lab@mbn.nifty.com	URL: http://tm-lab@a.la9.jp/